人生の先生

三月十四日・・・中学卒業の日。
皆と一緒に貰いたかった卒業証書。
三月十四日、告げられた「少年院送致」
二日後、少年院生活がスタートした。
大きな声で「宜しくお願いします」
初っ端から「声が小さいわ」「やり直せ」
何度やり直したか分からない。
毎日うっとうしいとばかり思っていた。

でも毎日一生懸命、日課に取り組んだ。
何時の間にか、いつも怒ってくる先生を見返したる。
そんな気持ちに変わっていた。

今まで怒ってばかりいた先生が僕に笑顔で言った。
「最近頑張っとんな」
この一言が僕の気持ちを変えた。

今まで周りの大人達を敵としか思っていなかった。
家族さえ関わる事はなかった。
いつも一人だった。
いつも寂しかった。
いつも辛かった。

でも少年院の先生達は、いつも傍で見守ってくれていた。
初めて大人を信頼する事ができた。
ただただ嬉しい気持ちでいっぱいになった。

ある日、先生が僕に言った。
「人生は玉ねぎのごとし、人は泣きながらその皮を剥く」
「玉ねぎはね、皮が黒くなったり、ドロがついて汚れていたり・・・
でも皮を剥くと中はピカピカなんや。でもな、ピカピカにするには辛くて
泣かんといかん。人が生きていくってそのくり返しなんやで」

今でも、一生懸命、日課に取り組んでいると、辛くて涙を流す時もある。
でも今の僕は乗り越える事ができる。
あの言葉がいつも心の中で僕を強くしてくれているから。
「先生、ありがとう。」

（四国少年院）